

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S4 #6

Top 10 Japanese Authors: Mishima Yukio

CONTENTS

- 2 Kanji
- 3 Kana
- 4 Romanization
- 5 English
- 6 Vocabulary
- 7 Sample Sentences
- 8 Grammar

6

KANJI

1. 三島由紀夫
2. 京都の名所の一つ・金閣寺。現在の金閣、実は1955年に再建されたものであることを知っていますか。1950年、当時21歳だった金閣寺の見習いの僧侶が放火し全焼。大きなニュースとして日本中が驚きました。
3. この事件を小説にしたのが三島由紀夫です。彼は、戦後の日本文学を代表する作家であり、若干16歳で同人誌に発表した『花ざかりの森』が話題となりました。
4. 三島の代表作『金閣寺』は、再建の翌年に発表された長編小説。
5. 主人公は、話すときに最初の音がうまく出てこないため、人と接するのが苦手な青年です。彼は貧しい寺に生まれ、幼い頃から繰り返し父に金閣寺の美しさを教えられていました。父の死後、弟子として金閣寺に預けられた主人公は、金閣の様々な美しい表情を間近に見て過ごします。金閣寺は、主人公にとって美の象徴でした。次第に、主人公の胸のうちには「美＝金閣」を自分のものにしたいという願望が湧き上がり、押さえきれなくなって放火に至るのです。炎上する金閣を見て「生きよう」と思う主人公。あなたは共感しますか。
6. このあらすじを読んでも分かるように、観念的・抽象的な作品なので日本語上級者の皆さんでも難しく感じることでしょう。三島の文学は海外でも評価が高いため、いくつかの作品が英訳されています。興味のある人はそちらから挑戦してみるのも良いかもしれません。
7. 1925年1月 東京都に生まれる
8. 1970年11月 享年45歳
9. 代表作 『金閣寺』
10. 『潮騒』

CONT'D OVER

11. 『仮面の告白』

KANA

1. みしま ゆきお
2. きょうとのめいしょのひとつ・きんかくじ。げんざいのきんかく、じつは1955ねんにさいけんされたものであることをしていますか。1950ねん、とうじ21さいだったきんかくじのみならいのそうりよがほうかしぜんしょう。おおきなニュースとしてにほんじゅうがおどろきました。
3. このじけんをしょうせつにしたのがみしまゆきおです。かれは、せんごのにほんぶんがくをだいひょうするさっかであり、じゃっかん16さいでどうじんしにはっぴょうした『はなざかりのもり』がわだいとなりました。
4. みしまのだいひょうさく『きんかくじ』は、さいけんのよくねんにはっぴょうされたちようへんしょうせつ。
5. しゅじんこうは、はなすときにさいしょのおとがうまくでてこないため、ひととせつするのにながてなせいねんです。かれはまずしいてらに生まれ、おさないころからくりかえしちちにきんかくじのうつくしさをおしえられていました。ちちのしご、でしとしてきんかくじにあずけられたしゅじんこうは、きんかくのさまざまなうつくしいひょうじょうをまぢかにみてすごします。きんかくじは、しゅじんこうにとってびのしょうちょうでした。しだいに、しゅじんこうのむねのうちには「びイコールきんかく」をじぶんのものにしたいというがんぼうがわきあがり、おさえきれなくなっほうかにいたるのです。えんじょうするきんかくをみて「いきよう」とおもうしゅじんこう。あなたはきょうかんしますか。

CONT'D OVER

6. このあらすじを よんでも わかるように、かんねんてき・ちゅうしょうてきな さくひんな のでにほんごじょうきゅうしゃ のみなさんでも むずかしくかんじることでしょう。みしまのぶんがくは かいがいでも ひょうかが たかいため、いくつかの さくひんが えいやく されています。きょうみの あるひとは そちらから ちょうせんしてみるのも よいかも かもしれません。
7. 1925ねん1がつ とうきょうと に うまれる
8. 1970ねん11がつ きょうねん45さい
9. だいひょうさく 『きんかくじ』
10. 『しおさい』
11. 『かめんのこくはく』

ROMANIZATION

1. Mishima Yukio
2. Kyōto no meisho no hitotsu, Kinkakuji. Genzai no kinkaku, jitsu wa 1955-nen ni saiken sareta mono de aru koto o shitte imasu ka.1950-nen, tōji 21-sai datta kinkakuji no minarai no sōryo ga hōka shi zenshō. Ōki na nyūsu to shite Nihonjū ga odorokimashita.
3. Kono jiken o shōsetsu ni shita no ga Mishima Yukio desu. Kare wa, sengo no Nihon bungaku o daihyō suru sakka de ari, jakkan 16-sai de dōjinshi ni happyō shita "hanazakari no mori" ga wadai to narimashita. Mishima no daihyōsaku "kinkakuji" wa, saiken no yokunen ni happyō sareta chōhen shōsetsu.

CONT'D OVER

4. Shujinkō wa, hanasu toki ni saisho no oto ga umaku dete konai tame, hito to sessuru no ga nigate na seinen desu. Kare wa mazushii tera ni umare, osanai koro kara kurikaeshi chichi ni kinkakuji no utsukushisa o oshierarete imashita. Chichi no shigo, deshi to shite kinkakuji ni azukerareta shujinkō wa, kinkaku no samazama na utsukushii hyōjō o majika ni mite sugoshimasu. Kinkakuji wa, shujinkō ni totte bi no shōchō deshita. Shidai ni, shujinkō no mune no uchi ni wa "bi ikōru kin kaku" o jibun no mono ni shitai to iu ganbō ga wakiagari, osaekirenaku natte hōka ni itaru no desu. Enjō suru kinkaku o mite "ikiyō" to omou shujinkō. Anata wa kyōkan shimasu ka.
5. Kono arasuji o yonde mo wakarū yō ni, kan'nenteki, chūshōteki na sakuhin na node Nihongo jōkyūsha no mina-san de mo muzukashiku kanjiru koto deshō. Mishima no bungaku wa kaigai de mo hyōka ga takai tame, ikutsuka no sakuhin ga eiyaku sarete imasu. Kyōmi no aru hito wa sochira kara chōsen shite miru no mo yoi kamo shiremasen.
6. 1925-nen 1-gatsu Tōkyōto ni umareru
7. 1970-nen 11-gatsu kyōnen 45-sai
8. Daihyōsaku "kinkakuji"
9. "shiosai"
10. "kamen no kokuhaku"

ENGLISH

1. Yukio Mishima
2. One of the most famous places in Kyoto is Kinkakuji, or the Temple of the Golden Pavilion. Did you know that the present-day Kinkakuji is actually a 1955 reconstruction of the original building? In 1950, a monk in training, who was twenty-one at the time, set fire to Kinkakuji and burned it to the ground. As headline news, it shocked the whole of Japan.

CONT'D OVER

3. The one who turned this event into a novel was Yukio Mishima. He is one of the authors representative of post-war Japanese literature, and whose publication of his story "The Forest in Full Bloom" in a fanzine at the tender age of sixteen became a major talking point at the time.
4. Mishima's major work "Kinkakuji" ("The Temple of the Golden Pavilion") is a full-length novel that was published the year after Kinkakuji was rebuilt.
5. The protagonist is a boy who, because he cannot make the initial sound come out properly when he speaks, has trouble interacting with other people. Born into a poor temple, from a young age he is told over and over by his father about the beauty of Kinkakuji. Following his father's death, the protagonist is taken in as an apprentice into Kinkakuji, where he spends his days gazing at the various beauties of the Golden Pavilion at close quarters. For the protagonist, Kinkakuji is the symbolic representation of beauty. Gradually, the desire rises in the protagonist's heart to make beauty, as the Golden Pavilion, his own. Unable to control himself, he ends up setting fire to it. As he watches the Golden Pavilion go up in flames, the protagonist feels the urge to go on living. Do you sympathize with him?
6. As you will have realized just from reading this summary, this story is a conceptual/ abstract one, so even those of you with advanced Japanese might find it difficult. Due to the fact that Mishima's work is highly acclaimed even outside Japan, several of his books have been translated into English. It might be good for those interested in his work to give those a try first.
7. January 1925— Born in Tokyo
8. November 1970— Died age forty-five
9. Best-known works— "The Temple of the Golden Pavilion," "The Sound of Waves," "Confessions of a Mask"

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
-------	------	--------	---------

再建	さいけん	saiken	rebuilding, reconstruction, rehabilitation
観念的	かんねんてき	kannenteki	conceptual, notional
炎上する	えんじょうする	enjō suru	to go up in flames, to catch fire
湧き上がる	わきあがる	wakiagaru	well up
願望	がんぼう	ganbō	wish, desire
間近に	まぢかに	majika ni	near, up close, close at hand
同人誌	どうじんし	dōjinshi	small private magazine, fanzine
戦後	せんご	sengo	post-war period, after the war
僧侶	そうりょ	sōryo	priest
抽象的	ちゅうしょうてき	chūshōteki	abstract

SAMPLE SENTENCES

<p>観念的な映画で良く分からなかった。 <i>Kannenteki na eiga de yoku wakaranakatta.</i></p> <p>The movie was conceptual, and I didn't really understand it.</p>	<p>5階建てのビルが炎上した。 <i>Go-kai-date no biru ga enjō shita.</i></p> <p>A five-story building went up in flames.</p>
<p>優勝した喜びが湧き上がってきた。 <i>Yūshō shita yorokobi ga wakiagatte kita.</i></p> <p>The joy of having won welled up.</p>	<p>私の姉は、結婚願望が強い。 <i>Watashi no ane wa kekkonganbō ga tsuyoi.</i></p> <p>My elder sister has a strong desire to get married.</p>
<p>間近に東京タワーを見たのは初めてだ。 <i>Majika ni Tokyo Tawā o mita no wa hajimete da.</i></p> <p>It's my first time to see Tokyo Tower up close.</p>	<p>友達は、同人誌を出している。 <i>Tomodachi wa dōjinshi o dashite iru.</i></p> <p>My friend publishes a small private magazine.</p>

戦後、日本は経済発展した。
Sengo nihon wa keizai hatten shita.

The Japanese economy developed in the post-war period.

山道で、僧侶に出会った。
Yamamichi de sōryo ni deatta.

I met a priest on the mountain path.

教授が抽象的な話ばかりしていて、よく分からない。
Kyōju ga chūshōteki na hanashi bakari shite ite yoku wakaranai.

The professor talks in nothing but abstracts, and I don't really understand.

GRAMMAR

Natsuko: オーディオブログ第四シーズン第6課 三島由紀夫

Yuichi: こんにちはゆういちです。

Natsuko: なつこです。祐一さん、今回紹介する作家は？

Yuichi: 三島由紀夫です。

Natsuko: 海外でもかなり評価の高い作家ですね。読んだことのあるリスナーの方もいらっしゃるかもしれませんね。

Yuichi: それでは、早速きいてみましょう。

本文

Natsuko: ブログの中で言っていた、金閣寺に火をつけた見習いの僧侶は、林承賢（はやししょうけん）という人だそうです。

Yuichi: 金閣寺自体も国宝ですけども、金閣寺だけじゃなくて、中に入っていた貴重な像とかも燃えちゃったんですね。うーん。もったいない。被害額は相当なものになってしまったと思います。

Natsuko: そうですね。それに、お金じゃ買えないものもたくさんあったので、そういった意味では本当に残念な事件ですね。作家の三島はこの事件にヒントを得て、「金閣寺」を書いたので、主人公の設定は林承賢にかなり近いみたいですよ。

Yuichi: あーそうなんですか。じゃ、最初の音をちゃんと出すことができなかったとか、周りの人とうまくいってなかったとかは同じなんですね。

Natsuko: はい、その辺は一緒みたいです。細かいところは色々と違うんだと思うんですけどね。

あと、特に大きく違うのは、小説の最後は主人公が燃える金閣寺を見て「いきよう」と思うのに対して、実際の犯人の林承賢は毒を飲んで死のうとした。。。というところですかね。

Yuichi: あ、でも犯人は死なないで、逮捕されたんですね？

Natsuko: そうなんです。逮捕された後に、犯人は、「火をつけたことは悪いとは思わない。金閣の美に対しねたみを押さえることができなかった。」・・・というようなコメントをしているらしいんですよ。

Yuichi: なるほど。『好きだけど・・・にくい・・・』みたいな感じですかね～。

Natsuko: そうですね。

Yuichi: まあ、わかるような・・・うーん、わからないような・・・。…うーんまあやっぱり、わからないかな(笑)。うーん。

Natsuko: ゆういちさんは、三島の作品は呼んだことはありますか？

Yuichi: はい、「潮騒」を読んだことがあります。ハッピーエンドなので、読んでよかったなあと思いますね。

Natsuko: そうなんですか。

Yuichi: お勧めですよ。なつこさんはどうですか？

Natsuko: 実は私は、ブログにも書いてありましたが、独特の世界観というか、観念的なところがちょっと難しいそうだなと思って、読んだことがないんですよ。

Yuichi: 是非、潮騒を読んでみてください。

Natsuko: 分かりました。

Yuichi: そういえば、三島由紀夫って色々な有名人と交流があったみたいなんですけど・・・噂によると、結婚前の美智子様と見合いをしたとか・・・してないとか。

Natsuko: えー、美智子様・・・って美智子皇后ですか？今の天皇陛下の奥様の？

Yuichi: そうです。

Natsuko: へー。

Yuichi: というのが、まあwikiに載ってました。だから、ちょっと情報のソースとしては信用が高いかどうかわかりませんがね・・・。

Natsuko: うーん。当時の皇太子と結婚する前にわざわざお見合いをする・・・っていうのも、ちょっとなんかありそうもない感じもするんですけどね。ま、噂でしょうけれども、ちょっと想像力をかきたてられますね。

Yuichi: 三島由紀夫だったら、「もしかしたら」みたいな感じがしますね。じゃ、三島由紀夫のレッスンはここまで。 **Natsuko:** はい、それじゃあ、また次回お会いしましょう。